

令和7年第5回鹿角市議会定例会 一般質問

□質問順位及び質問所要時間

6月17日（火）午前10時～

- | | | | |
|----|-------|----|-------|
| 1 | 兎澤祐一 | 議員 | (60分) |
| 2 | 湯瀬弘充 | 議員 | (30分) |
| 3 | 成田哲男 | 議員 | (30分) |
| 4 | 丸岡孝文 | 議員 | (60分) |
| 5 | 舘花一仁 | 議員 | (30分) |
| 6 | 赤坂 勲 | 議員 | (30分) |
| 7 | 保田直美 | 議員 | (30分) |
| 8 | 奈良明日香 | 議員 | (30分) |
| 9 | 安保真希 | 議員 | (30分) |
| 10 | 綱木裕一 | 議員 | (30分) |
| 11 | 松村託磨 | 議員 | (30分) |
| 12 | 栗山尚記 | 議員 | (60分) |

6月18日（水）午前10時～

□質問時間割当表

10:00	11:00	11:10	11:40	12:10	13:00	14:00	14:10	14:40	15:10
6月17日 (火)	兎澤祐一 (60分)	休憩 10分間	湯瀬弘充 (30分)	成田哲男 (30分)	休 憩	丸岡孝文 (60分)	休憩 10分間	舘花一仁 (30分)	赤坂 勲 (30分)

10:00	10:30	11:00	11:10	11:40	12:10	13:00	13:30	13:40	14:40
6月18日 (水)	保田直美 (30分)	奈良明日香 (30分)	休憩 10分間	安保真希 (30分)	綱木裕一 (30分)	休 憩	松村託磨 (30分)	休憩 10分間	栗山尚記 (60分)

令和7年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	1	質問者	兎澤 祐一	質問所要時間	60 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1	2025 年問題について		① 本市の高齢者単身世帯の推移と今後の見通しについて伺う。 ② 今後の高齢者単身世帯への支援策について考えを伺う。 ③ 現状、若年単身世帯も含め、誰もが住まいや経済的に困らない状況をつくることが大切と考えるが、対策を伺う。		
2	これからの介護について		① 現在、在宅介護が主流となっているが、今後の対策について伺う。 ② 介護人材の不足が懸念されるが、介護サービスの支給状況や現場の人員配置の今後の見通しについて伺う。また、サービスの低下を懸念する声も上がっているが、現状と今後の見通しについて併せて伺う。 ③ 高齢化とともに認知症の割合も増加すると考えられるが、今後の対策について伺う。 ④ 介護サービスの問題とともに利用者負担額が高くなっていくのではとの心配の声が聞かれるが、今後の見通しも含めて伺う。 ⑤ 今後の介護人材の確保に向けた取り組みについて伺う。 ⑥ 地域の福祉課題が複合化・複雑化する中、ソーシャルワーカーの重要性が高まっているが、人材確保に向けた取り組みについて伺う。		
3	骨髄バンクドナーの継続的確保に向けた取り組みについて		① 造血幹細胞移植に対する市民の理解を深めるための施策について、どのように取り組んでいるのか伺う。		

令和7年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	1	質問者	兎澤 祐一	質問所要時間	60 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
4 災害時における避難所対応等について（スフィア基準に基づく対応について）			② 本市でも「ドナー助成制度」を立ち上げ、命のボランティアを支援する制度はできないか伺う。 ③ ドナーに対して、介護や子育て支援施策においても最大限配慮を図ることが必要と考えるが、市の考えを伺う。 ① 災害発生時で、昨年 12 月に改訂された避難所運営指針における「スフィア基準」について、本市のトイレ基準は幾つになっているのか伺う。 ② スフィア基準の「トイレを 20 人に 1 基」とする取り組みについて、市の対応を伺う。 ③ 入浴施設の基準の取り組みについて、現状を伺う。 ④ スフィア基準では、避難所内の 1 人当たりのスペースを「最低 3.5 m²」とし、段ボールベットなどが置ける広さの確保を目指しているが、市の実施状況について伺う。 ⑤ 政府は、被災地のニーズに応じて、キッチンカーやトイレ、トイレトレーラー、ランドリーカー等を迅速に提供するための事前登録制度を県と結んでいる。本市でも積極的に取り組むべきと考えるが、市の考えを伺う。 ⑥ 国では、災害ボランティアとして活動する支援団体の事前登録制度の創設を検討しており、本市でも積極的に取り組むべきと考えるが、見解を伺う。 ⑦ 災害応急対応について、孤立が想定される地区での関係機関が連携した訓練や受援計画に基づく訓練の必要性を指摘しているが、本市の受援計画の現状について伺う。		

令和7年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	1	質問者	兎澤 祐一	質問所要時間	60 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
5	G I G A	スクールの取り組み状況について	⑧ 受援計画について、職員への計画内容の周知や計画に基づく訓練の実施等により、受援計画の実効性の確保が重要となるが、現状について伺う。 ① 授業での利活用の割合について伺う。 ② 1 人 1 台の端末について、不登校、特別支援、病気療養、外国籍等の多様な児童生徒の実情や特性に応じた利活用の現状について伺う。 ③ 端末の持ち帰りの対応について、現状を伺う。 ④ 電子教材、特に電子教科書への対応と、それによる児童生徒の学びの状況について伺う。 ⑤ G I G Aスクール構想は、多様な子供たち一人一人に公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育 I C T環境の実現を目指すことにあるが、学校における現状について伺う。		

令和7年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	2	質問者	湯瀬 弘充	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1 市長の方針について (1) 市長の公約や考え方について			① 秋田県では知事が新たに就任し、人口減少を食い止めるとして、その対策を重要課題に挙げている。鹿角市においても、人口減少対策に重点を置いた政策形成が必要と考える。市長のホームページに掲げられている「夢と希望がある、ずっと住み続けたいまち鹿角」とは、具体的にどのようなまちを指すのか。また、人口減少対策に対する政策の具体案について伺う。		
2 災害対策について (1) 消防団活動について			① 消防団活動においては、操法訓練大会が年に一度の重要な行事となっている。各分団では日頃の訓練の成果を発揮し、節度ある迅速な消火技術を競っているが、その準備にかかる資機材・被服等の費用や人力的負担が年々増加している。少子高齢化や人員不足の影響により大会への参加が困難となっている分団も見受けられる。より実践的な訓練内容へ見直すなど、大会のあり方についての考えや今後の対応を伺う。 ② 現在、活動服や雨具の更新が進められているが、現場で実際に使用する手袋やヘッドライトなどの装備品についても、より定期的な支給が望まれる。また、現場では煙の吸引が多い場面もあり、防護マスクの支給や、冬季の防寒具の支給も検討すべきと考える。特に消防出初め式においては、氷点下の中でも防寒具を着用せずに行進をしている現状があるが、時代に即した対応が必要ではないか。装備の充実が団員の確保・維持に資すると考えるが見解を伺う。		
(2) 避難場所の対策について			① 大規模災害時には、安全・安心な避難所の確保に加え、長期避難に備えた仮設住宅の設置が重要となる。能登半島地震では、仮設住宅自体が洪水被害を受ける事例もあり、避難場所の安全性の再検証が求められている。本市において仮設住宅の候補地はどこを想定しているのか。また、それらの候補地が洪水浸水想定区域に該当していないか併せて伺う。		

令和7年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	2	質問者	湯瀬 弘充	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
3 空き家対策について					
(1) 空き家の状況について			① 昨年度の大雪により、屋根や外壁の倒壊した空き家が複数あると伺っている。市として現状把握はどこまでできているか。市内の空き家総数及び危険空き家の件数についても併せて伺う。		
(2) 今後の対策について			① 危険空き家が増加しているが、所有者とは連絡が取れているか。今後の具体的な対策についても併せて伺う。		
4 廃校や利用の少ない施設の利活用について					
(1) 旧草木小学校と旧末広小学校について			① 旧草木小学校及び旧末広小学校の利活用については、企業等への貸付・売却、大学等の誘致などが検討されているようだが、現在の検討状況、貸付条件、金額等について伺う。		
			② 降雪地域である鹿角市では、冬季や悪天候時に子供たちが屋外で遊ぶことが難しく、「安心して遊べる屋内施設が欲しい」との声が多く寄せられている。廃校の一部などを改修し、屋内遊具施設として整備する考えがあるか伺う。		
(2) 大湯温泉総合振興プラザの利活用について			① 大湯温泉総合振興プラザでは、「こけし館」として展示が行われているが、年間の来館者数を伺う。なお、来館者が少ない場合、展示内容の刷新による観光客の誘致、または地域住民の利活用に向けた検討など、施設の有効利用を図る必要があると考える。維持費負担を踏まえた有料化の検討などを含め、今後の方針について考えを伺う。		

令和7年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	3	質問者	成田 哲男	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1		市長の市政運営に対する施策や基本方針について	① 国内外から投資されるまちづくりを目指す考えのようだが、国内外から投資されるまちとはどのようなものか伺う。		
			② 基本方針の「柔軟で持続可能な市政」について、「市民に現状を把握していただき政策を共有する」とあるが、どのような手段を考えているのか伺う。		
			③ その中で「痛みを伴う改革」とあるが、改革の例として挙げることができるものがあるか伺う。		
			④ 基本方針の「支えあうまちづくり」で、「住み慣れた地域の維持と地域コミュニティの再構築」とあるが、その内容について伺う。		
			⑤ 医療ビジョンを策定する予定のようだが、どのような内容をどのようなスケジュールで進めていくのか伺う。		
			⑥ 「鹿角高校の魅力向上のための新たな取り組みを進めていく」とあるが、どのようなことを考えているか伺う。		
2		旧十和田高校を含む市内の県の施設について	① 改修を予定している交流センターだが、県から譲渡を受ける際、県との協議をどのように進めていったのか伺う。		
			② 旧十和田高校の施設の利活用について、希望を出してから半年以上経過した現在の状況を伺う。		

令和 7 年第 5 回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	4	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1	選挙の投票率が下がり続けていることでの市政への影響と有効な対策について			① 2022 年の参議院選挙から 46 か所あった投票所を共通投票所 6 か所に再編し、今年 3 月の鹿角市議会議員選挙から期日前投票できる共通投票所を 7 か所へと増やし、投票所へ行くための手段が無いなどの有権者のために、巡回式期日前投票所を 30 か所以上設置し投票できる環境の提供に努め、有権者の利便性と投票率向上が目的の期日前投票は、利用をする有権者が増え期日前投票率は上がったが全体の投票率下落には今回も歯止めはかからなかった。今回巡回式期日前投票所の運営に努めた職員の苦労には大変感謝している。全国でも有権者の高齢化、地域の過疎化、選挙に関わる人手不足などで投票所の削減が続いており、県内では五城目町が来月の国政選挙から 14 か所あった投票所を半分の 7 か所に削減することを決めた理由も同じである。しかし、だからと言って投票所の削減が投票率を下げる施策であってはならないと考える。当市の 46 か所から 7 か所への投票所再編は正しい選択であったと思われるか、投票所減少を直に感じられているであろう湯瀬地区に住む市長に伺う。 ② 2023 年 1 月に定めた「鹿角市投票率等向上推進計画」では「各選挙後に投票結果を分析し計画の改善を図る」としているが、今回の市長選の結果 58.41%をどう受け止めて、次期選挙までにどのような対策を取られるのか伺う。 ③ 今回の市長選挙は不信任可決によるものに加え、5 人が立候補するなど有権者にとっては普段以上に市政に関心に向けた選挙であった。また、市長選の直前に行われた市議選は行政への不満から議会の刷新を訴える多くの新人候補が立候補した。この 2 つの選挙は、マスコミを含め市の内外から注目されていたにもかかわらず、どちらも投票率は最低を更新してしまった。このように下がり続ける投票率は市の施策に影響が生じると考えているか、または影響はないと考えているのか伺う。	

令和7年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	4	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
2 鹿角市東部通称青垣山における風力発電事業について				④ 今回の選挙で当選した笹本市長へ票を投じた有権者は 5,268 人で、当日の有権者数の 22.4%である。表現を変えれば 77.6%には支持されていないとも言える。市制施行から 53 年間、13 回の市長選を同じように見ると当選者が得た平均支持者数の率は 42%である。今回の投票率の低さが選挙後の市政運営に影響を及ぼす可能性を示したもので、投票率の向上が市政運営には欠かせず、この投票率で選ばれたことが市長にふさわしくないということではない。投票率を回復させるためには投票所を増やすべきと考えるが、例えば今の倍の投票所を開設するのに必要な職員数、立会人など、協力をいただく市民の数は何人必要なのか伺う。また、それは集められない不可能な人数であるのか併せて伺う。 再生可能エネルギーについて決して反対の立場で質問するものではないことと、市は 2 事業者から事業説明を受けていることを前提で質問する。 ① 5 月 23 日に鹿角市議会へ 2 事業者から申し出のあった事業計画説明会が開かれたが、市長にはいつどの段階で事業説明がされたのか伺う。 ② 全国で風力発電設備が急激に増えることでいろいろな問題が発生していることは知っていると思うが、市長の風力発電に対するイメージについて伺う。 ③ 5 月 26 日に市民団体奥羽山脈に守られる会より、鹿角市に青垣山で進められている風力発電事業に関する要望書が提出され、5 月 30 日には同様の要望が秋田県クリーンエネルギー産業振興課、環境管理課のアセスメント担当にも提出された。秋田県庁での提出の様子とその後の記者会見は NHK ニュースで放送されていたため、見られた市民も多くいた。要望の内容である「要望は風力発電の建設自体に反対するものではなく、丁寧に説明や対話することで住民との合意形成を積み上げて事業を進めてほしい」と提出者の「地域の人から懸念や心配の声が上がっているうちは環境アセスメントの手続きを止めてでも真摯に寄り添ってもらいたい」との意見について、どのように市長は受け止めるのか伺う。	

令和 7 年第 5 回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	4	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
				④ 上沼旧放牧地周辺から尾根伝いに風車を建設する 2 事業者の風力発電事業申請は市長が市議会議員であった昨年の 7 月から始まっており、市民に対し環境配慮書を公開して意見を募集したのが 7 月 10 日から 8 月 9 日までであった。配慮書への県の意見は 7 月 27 日に、鹿角市の意見は 7 月 29 日に出されているが、計画段階環境影響評価配慮書の公開、意見募集、自治体からの意見書提出について、この事業に関係するごくわずかの市民以外、風力発電風車の建設が予定されていることすら知らされていないことを認識されているか。そして、市民への周知が不十分であったこのことについて市長はどのように思っているか伺う。 ⑤ 鹿角市が提出した意見書の内容について伺う。 私は令和 6 年 12 月の定例議会で「鹿角市はどのような思いで意見書を提出されたのか伺う」と質問を行い、「事業実施想定区域においては、本市の貴重な景観資源や希少価値のある動植物などが豊富に存在することから、適切な方法により調査、予測及び環境評価を実施した上で、景観への影響を回避することや、自然環境の保全を重視した上で十分に配慮していただくことなどの意見を付して回答しております」との答弁がなされた。しかし鹿角市としての、鹿角市民の代弁者としての意見書としては重要と思われることが記載されておらず、事業実施自治体の意見書として内容が不足していると指摘させていただく。 まず一つは、地域住民から事業について理解を得られるよう十分な説明を行うことに配慮することという基本中の基本が述べられていないこと。もう一点、こちらが最も重要であり、不記載に疑問を持っていることである。同所が多く多くの市民と県や林野庁などの森林行政関係者と一緒に森の再生を願って 24 年もの長い間、植林を続けている場所であり、植樹祭の会場となっているのだという記載がないことである。 そこで、鹿角市民にとって上沼から馬の背、そこから連なる青垣山東部の山並みはかけがえのない大切な自然景観であり、生態系も含め守るため 24 年にわたり不断の活動を鹿角市民、県農林部、林野庁米代東部森林管理署が合同で続け、植樹祭も行っている場所という欠かせない意見を計画段階環境影響評価配慮書に対する意見書に記載しなかった理由を伺う。	

令和 7 年第 5 回鹿角市議会定例会一般質問

No.4

順位	4	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
				⑥ 計画段階環境影響評価配慮書の閲覧から意見書締切りまでの間、鹿角東部の青垣山での風力発電事業について市民に対する説明は事業者のみ数回開いたものの参加者は数名だったと聞いており、少ない理由として一番に挙げられるのは市からの広報がほぼされなかったためである。市民には何も知らせなかったとも言えるが、今年に入り突然 2 月 23 日に市民向けの「上沼地域の風力発電計画を知る会」がコモッセで開かれた。私も参加したが、気になったのは司会者が冒頭や途中で「この会は市から事業者へお願いして開いていただいていることをご理解ください」と何度か発した言葉である。2 社の説明内容は事業の売込み合戦コンペのようであった。 この会を開いたのが配慮書への意見書提出が既に締め切られてから 5 か月も経ってからであった理由と、開くに至った経緯を伺う。	
				⑦ 方法書について、こちらも既に閲覧や意見の集約が終わっている。環境影響評価方法書の閲覧が㈱グリーンパワーインベストメントは 3 月 11 日から 4 月 10 日で意見書締切りが 4 月 24 日、同じくかづのグリーンエネルギー㈱は 4 月 4 日から 5 月 12 日で意見書締切りは 5 月 26 日であったことから、公開された方法書への鹿角市への意見請求は間近だと思われるため、県へは先ほど配慮書内容で指摘した地域住民から事業について理解を得られるよう十分な説明を行うことへの配慮が不足しており、今の事業者の進め方では地域住民にとっては計画を知り内容を理解するまでに至っていないこと、計画エリアは鹿角市民と県や林野庁などの森林行政関係者と一緒に森の再生を願い 24 年もの長い間、植林を続けている所であり、鹿角市植樹祭の会場にもなっているため事業適地ではないこと、事業にはわずか 1 か月ほどで 1,200 名を超える市民から景観が変わることへの反対の意思が寄せられており、今後もその数は増えると見込まれるため、地域住民の理解が深まるまで一旦環境アセスメントの作業を止めるか、風車建設場所の変更など再検討を行うべきとの意見を加え提出いただきたいが、市長の方法書への対応を伺う。	

令和7年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.5

順位	4	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	60 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
3	風力発電と鹿角市景観条例について		① 風力発電事業者の環境アセスメントは、令和3年6月策定の鹿角市景観計画を基に9月に制定された鹿角市景観条例に反していないのか伺う ② 配慮書段階で大湯環状列石から風車が見えるとの事業者説明があるが、世界遺産指定取消しなどの影響はないものなのか。また、県の文化財担当やイコモスなどの専門機関への問い合わせは行っているのか伺う ③ 市民の事業への反応を受け、大湯環状列石重点地域の眺望ゾーンが西側に設定されているが、そのゾーンを360度に変える、また鹿角における風力発電事業を想定していないこと、生態系、環境への内容が不足しているなどから、鹿角市景観条例全体を見直すべきではないか、市長の考えを伺う		
4	自然環境保全や景観等ゾーニング設定について		① 5月30日の秋田県議会本会議において、石田寛県議が秋田市新屋海浜公園で起きた風車ブレード落下による痛ましい死亡事故についての質問の中で「ゾーニングによる事故再発防止」について鈴木知事に質問をしている。知事からはゾーニングによる事故防止にはさらなる検討が必要との答弁がされたが、その前段で青森県などの自然環境や景観、文化財等の保全ゾーニングについて新設の風車や太陽光発電の立地を環境保全上適切な場所へ誘導する上で有効な手段と考えるとの答弁がされている。青垣山の風力発電に反対している市民団体に寄せられている1,200筆以上の署名と意見書の多数は自然と景観が損なわれるとの理由によるものと考ええると、再生可能エネルギーに反対はしておらず、共生できるエリアを定めるゾーニングの早期の設定することは鹿角へ進出してくる産業とも共存することになり鹿角環境・景観保護ゾーニングを策定すべきと考えるが、市長の考えを伺う。併せて、県に対し自然環境保全や景観等ゾーニングを行うよう要望はできないか伺う。		

令和7年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	5	質問者	館花 一仁	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1 熊・有害鳥獣対策について					
(1) 改正鳥獣保護管理法について				① 改正鳥獣保護管理法の成立と環境省の政令案による「危険鳥獣」指定を踏まえ、鹿角市として、市街地における銃猟判断の基準や「緊急銃猟実施者」の選定・指定に関する基準や体制整備をどのように進めるのか伺う。また、発砲前後の住民対応や避難・通行制限措置、責任所在についても、ガイドライン整備を急ぐ必要があると考えるが、市長の見解を伺う。	
(2) 自治体職員ハンターの育成・配置について				① 市街地への出没が常態化しつつある中、現場対応の実効性を確保するためには、迅速な判断と行動が取れる「自治体職員ハンター」の育成が不可欠と考える。政令案においても、緊急銃猟実施者には過去3年以内に熊等の捕獲経験が求められ、兼業ハンターの即応は困難とされる状況がある。このような中で、鹿角市として、銃猟資格を持ち、講習を修了し、一定の捕獲経験を積ませた市職員を複数名育成・配備する計画を進めるべきと考えるが、市長の見解を伺う。	
(3) リスクエリアの可視化と住民連携（出没マップ・整備支援）について				① 市街地に隣接する空き家・耕作放棄地・果樹の放置区域などが、熊の潜伏・通過ルートとして機能している現状がある。こうした場所を「危険鳥獣出没リスクエリア」として可視化し、地域住民と共有するため、出没マップや重点管理区域の策定に着手すべきと考えるが、市の取り組み状況と今後の方針について伺う。また、その対応策として、緩衝帯整備や資材支援、草刈り・伐採への助成制度の拡充についても併せて伺う。	
(4) 科学的管理手法（麻酔銃・GPS等）の導入並びに管理強化ゾーンの設定と運用について				① 秋田県では、箱罠にかかった熊に対して麻酔銃を使用し、GPSチップを装着して放獣するモデルが進行中である。今後の科学的管理型対策として、これに準じた技術の鹿角市への導入の可能性について伺う。 さらに、今年度より鹿角市が5か所に設定を進めている「管理強化ゾーン」については、県の第6次ツキノワグマ管理計画に基づき、人身被害のリスクが高い地域を重点管理し、春・秋の親子熊や冬眠中の個体の捕獲を可能にする制度であるが、このゾーンの選定根拠と対象地域、実際の捕獲体制、住民や登山者への情報提供のあり方について、市の具体的な運用方針を伺う。また、管理強化ゾーンの拡大や、県境域（仙北市や小坂町など）との調整状況についても併せて伺う。	

令和7年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	5	質問者	舘花 一仁	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
(5) 登山道・観光地における熊出没対応について			① 登山者や観光客が利用する登山道・自然歩道・キャンプ場などにおける熊出没対応について、鹿角市としてどのように整備・発信・注意喚起を行っているのか伺う。また、仙北市との連携・情報共有の体制整備状況や、今後の広域対応マニュアル整備の必要性について併せて伺う。		

令和 7 年第 5 回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	6	質問者	赤坂 勲	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1	市長の施政方針について (1) 2030 年カーボンニュートラルの目標の継続について			① 本目標達成は前市長の目標であったと思うが、国に先駆けて達成することを掲げたものの、市民にとっては拙速であり、少子化や財政難等喫緊の課題よりも優先度が高い目標なのか。継続した目標として掲げる方針か市長の考えを伺う。	
2	地域コミュニティの維持と共働パートナーとしての地域づくり協議会のあり方について			① 市長は支え合うまちづくりとして、地域住民同士の支え合い・自治会活動を強化し、住み慣れた地域で安心して暮らせる地域を掲げているが、その旗振り役を担う地域づくり協議会の職員の待遇が、市の会計年度任用職員と比較しても給与、福利厚生面で劣っているため、職員確保に苦勞している現状がある。地域づくり協議会職員の待遇改善が必要と考えるが、市長の考えを伺う。	
3	子育て環境の充実について			① 高校統合に伴って通学距離が伸び、バスや電車利用者が増え、経済的負担が増す中で、市路線バスフリー定期券「たんぼKOMACHIパス」の購入助成があるが、小坂町では同様の定期券助成に 65 歳以上、65 歳未満の区分に加え、中高生区分があり、最も高額な 6 か月定期券では 12,000 円の差がある。鹿角市も同様に中高生の通学対策として、中高生区分を創設し、子育て世代の支援を行う考えはないか伺う。 ② 現在高校ではパン等の自販機が校内にある以外、飲食物を入手できず、弁当を忘れたなどの場合に対応が難しい現状があり、校外へ出ることも制限されてるため困るとの声もある。そこで、鹿角高校の魅力アップにつなげ、子育て世代の負担軽減を図るため、市の給食センターの余剰能力を活用し、鹿角高校への給食提供を実施できないか伺う。	

令和 7 年第 5 回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	6	質問者	赤坂 勲	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
4	未利用県有財産の活用について (1) 旧十和田高校野球場の利用について			① 隣接している十和田中学校の野球場を利用している生徒の保護者より、中学校の野球場の排水に問題があり部活動に支障が出ていることから、旧十和田高校野球場の利用ができないかとの要望があったが、その要望は把握しているか。もし把握しているとすれば、所有者である県との交渉等はどのような段階にあり、今後の見通しが立っていれば利用が可能となる時期等について伺う。	
5	有害鳥獣対策について			① 現在緊急対策で行っている誘引木の伐採事業であるが、結実していないにも関わらず熊の出没が止まらず、効果が見えにくいと考える。そもそも誘引木に限らず、今の時期であれば桜の実を食べるため、果樹に限らず誘引する可能性があるが、市民にとって有益な景観を形成している桜も対象にすることは現実的ではないと考える。そこで、現在設置している箱罠は目撃箇所に仕掛けていると思うが、これまで出没している熊の傾向から、熊の通り道やねぐらなどの場所の目星がついていることから、誘引木伐採ではなく箱罠をさらに増やし、頻出エリアに常設するほうが個体調整のためには効果的だと考えるが市長の考えを伺う。	
6	地域振興対策について (1) 毛馬内地区の振興策について			① 毛馬内商店街は、花輪地区と比較して営業している店舗が急激に減少し、空き店舗ばかりの現状である。一方で国道 282 号と国道 103 号が交差し、小坂町、大館市へのアクセス拠点として交通量が多く、何らかの対策を行うことで活性化が可能と考える。しかし、公共施設の整備は、花輪が中心となって進められ、学校、公共施設ともに十和田地区の施設は古く、公共投資がおざなりになっていると考えている。そこで、十和田市民センターの更新時期が迫る中、毛馬内・十和田地区の今後のまちづくりビジョンについて市長の考えを伺う。	
7	市有財産活用の見直しについて (1) 旧平元小学校の用地で検討されている太陽光発電事業の進捗について			① 旧平元小に開設されている児童クラブ利用者から、子供たちが遊んでいる校庭に、太陽光パネルが設置され、遊び場がなくなることと高压電線が敷設されることへの不安の声が寄せられている。現在の事業の進捗状況と、このような意見への対応について伺う。	

令和7年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	7	質問者	保田 直美	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1	害虫駆除について				
	(1) アメリカシロヒトリの発生による被害の実態について			① 昨年は、樹木の葉を食い荒らす蛾の一種、アメリカシロヒトリの異常発生により、多くの市民がこの毛虫の駆除に大わらわで悲鳴を上げていた。その被害は道の駅かづののシダレカツラの木をはじめ、街路樹や公園、住宅の庭木など広範囲に及び、一部の保育園では屋外での活動を自粛したクラスもあった。このことについて、市民から苦情が寄せられているか。また、その内容と被害の実態をどのように把握されているのか伺う。	
	(2) 防除対策について			① アメリカシロヒトリは今後も大量に発生することが懸念されるが、本市ではこれまでどのような対応をしてきたのか伺う。また、新たな対応策などの考えがあれば併せて伺う。	
	(3) 効果的な早期駆除について			① アメリカシロヒトリの幼虫の特性を踏まえ、発生時期の前には、早期発見の方法、それを発見した場合の駆除の方法、あるいはそうした駆除・防除をしてくれる機関などを広く周知し、市民が効果的な早期駆除などの対応ができるよう市で取り組んでいただきたいが、考えを伺う。	
2	こども誰でも通園制度について				
	(1) 制度の概要と一時預かり事業との違いについて			① 児童福祉法及び子ども・子育て支援法に基づき新たに創設される「こども誰でも通園制度」が、令和8年度から全ての自治体で実施されることになるが、この制度の概要と一時預かり事業との違いについて伺う。 また、本市における対象施設と、この制度の利用者数の見込みについて併せて伺う。	
	(2) 保育士不足に対する処遇改善や人材確保策について			① 昨今どこの保育所も慢性的な保育士不足であり、この「こども誰でも通園制度」により新たな業務が増え、保育士の負担増加が予想される。 この制度の本格実施に向けて、市内対象施設では、現在の保育士の配置状況で大丈夫なのか。また、保育士不足に対する処遇改善や人材確保策について伺う。	

令和7年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	7	質問者	保田 直美	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
(3) 制度実施に向けた取り組みについて			① 令和8年度の本格実施の前に、モデル園を設けて様々な課題を抽出し対応している自治体もある中で、本市はいきなり本格実施するようだが、事業者の方々からは不安視する声も聞かれている。 制度実施に向け、本市で今年度予定されている取り組みについて伺う。また、制度実施による保育現場の負担増加についてどのように認識されているのか、業務負担増加に対する支援策などについても併せて伺う。		
3 鹿角高校の通学バスについて					
(1) 運行状況の把握と通学の利便性向上について			① 令和6年4月から、花輪、十和田、小坂高校の3校が統合して鹿角高校になったが、現在の通学バスの運行状況は、小坂操車場6時45分発、終点の鹿角高校に7時49分着の1本だけとなっている。小坂地区からのバスの運行がたった1本ということで車内は満員となり、車中で体調を崩す学生もいたと聞いている。対する大館鳳鳴高校行きは、小坂操車場からのバスは6時45分発と、7時10分発の2本となっている。 また、帰りのバスの運行状況は、水曜日を除いた4日間は、鹿角高校発15時53分の1本で、ホームルームが長引くと乗車できない時刻であり、さらに、鹿角花輪駅前からの路線バスの最終は19時8分だが、部活動をしている学生は、学校から駅まで歩いていく時間を考慮すると間に合わない。加えて冬場には、自転車通学している学生もバスに乗ることから、乗車率が上がり、車内密度が高まり、今以上に環境が悪化することが懸念される。 鹿角高校が統合したことで、遠い高校に通うことになった学生もいることから、通学の利便性を考慮してバス通学の環境を整えていくよう増便できないか。また、他の対策を検討されているものか伺う。		
(2) 鹿角市外への学生の流出の危惧について			① 今のままでは通いにくいと悩んでいる家庭も多いと聞いている。このままでは、十和田地区の学生が、少しでも通学の利便性の良い大館方面の学校に流れてしまうのではないかと危惧しているが、市ではどのように捉えているのか。また、対応について考えを伺う。		

令和7年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位		8	質問者	奈良明日香	質問所要時間	30 分	No.1
質 問 事 項					質 問 要 旨		
1 鹿角の小児科・産婦人科医療の今後について (1) 産婦人科分娩機能再開に向けた取り組みについて					① 鹿角から分娩可能な産婦人科が無くなって数年が経った。今でもなお産婦人科の復活を望む声もある一方、地方での分娩可能な産婦人科が減少しており、分娩できない自治体が増えているのも事実である。3 月の住民説明会でも、「そもそも産婦人科医になられる方が少ない」、「産婦人科医の分娩の際のリスクが大きい」などの話を伺った。 大館市立総合病院が一番近隣の分娩可能な医院かと思うが、実際の出産の際、陣痛が来てから病院に行くまでの時間のことを考えると、やはり市内に産院があるか無いかは、出産に大きく関わってくる。鹿角市として、今後の分娩機能再開に向けた取り組みについて伺う。		
(2) 小児科・産婦人科医療体制の縮小に伴う少子化対策の今後の展望について					① 小児科医療体制の縮小や産婦人科分娩機能の廃止に伴い、少子化が加速する懸念がある。今後どのような方法でこれらに起因する少子化問題に向き合っていくのか、展望や考えを伺う。		
2 教育に関して (1) 義務教育におけるスキー授業について					① 鹿角市は「スキーと駅伝のまち」を銘打ち、小中学校でもスキーを授業に組み込んでいるが、スキー授業に係る用具一式は個人で用意しなければならない。成長に伴いサイズアウトしてしまうため、使い回せるものではなく、兄弟がいたとしても年間数万円の出費となる。さらに、積雪不足によりスキー授業を中止する年もあるなど、スキー用具の運搬も含め、時間的にも金銭的にも家庭の負担は大きいものとなっている。毎年リサイクル品のバザーなども開催されているが、用具はすぐ売り切れてしまい、需要と供給のバランスが成り立っていない。また、昨年には市内のスポーツ用品店も閉店し、用具を入手すること自体ハードルが上がっている今、市内のスキー場がレンタルを希望する児童生徒分の用具一式を準備し、各小中学校で保管をするなどの連携はできないものか伺う。		

令和7年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	8	質問者	奈良明日香	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
(2) 高校通学への支援について				① 昨年、鹿角地区の3高校が統合し「鹿角高校」が開校した。本来地元の高校に通う予定だった生徒が、統合に伴いバス通学、家庭での送迎となり、経済的にも時間的にも負担を感じるとの声が上がっているが、鹿角市では高校通学については支援を受けることができない。 高等学校は市ではなく県の管轄であり、支援は難しいのではとの声もあるが、実際秋田県井川町では、高等学校などに通う生徒へ通学定期券の購入費用を一部助成するという事例もある。鹿角高校のみの通学に限らず、遠方の高校へ通学する生徒に対しても、何らかの支援や補助を行う考えはないか伺う。	
(3) 不登校及び保健室登校の児童生徒への支援について				① 文部科学省の調査によると、令和5年度の全国の不登校児童生徒の割合は在籍児童生徒数の3.72%に達しており、市内小中学校でも令和4年度は1.8%、令和5年度は2%と、全国の数字は下回っているものの、概ね2%付近で推移している。鹿角市では児童生徒への支援として「かづのこもれび教室」を設置しているが、送迎の問題や、施設を利用することにより学校やクラスメイトとのつながりが薄れていくこと、学校の授業に追いつけないのでは等の懸念の声がある。本市では市内小中学校でも全児童生徒にタブレット端末を配付し授業を行っているが、タブレット端末を利用したオンライン授業やメタバース授業などはできないか伺う。 ② 愛知県岡崎市では、市内全中学校の校内にフリースクールを設ける取り組みを実施している。校内に教室があり、あくまで一つのクラスとして扱われることにより、学校行事等への参加などもしやすい、通いやすいといった利点がある。保健室登校の児童生徒だけではなく、不登校の児童生徒が校内フリースクールには通えるというケースも多く、担任となる教員もいるため、学習面、生活指導面でも安心がある。鹿角でもこのような取り組みをすることはできないか伺う。	

令和7年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	8	質問者	奈良明日香	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
3 男女共同参画、育児休暇制度について			① 共働きの世帯が増える中、子育てを家庭だけでなく、地域や自治体など、大きな輪で捉えていく流れが全国的に進んでいる。その方法の一つとして育児休暇があるが、厚生労働省の調査によると、2023年度の女性の取得率は84%、男性の取得率は30%と、男女ともに取得できる制度にも関わらず差が大きく見られる。6月は男女共同参画月間でもあるが、育児休暇の取得は男女共同参画にも大きく関わってくる問題と考える。 そこで、市役所職員の育児休暇取得率の過去5年の推移について伺う。また、笹本市長は今年4月に第2子が誕生されているが、今年5月、栃木県矢板市では市長が育児休暇を取得している。市のトップである市長が育児休暇を取得することに関しては賛否両論の意見があるが、首長という立場だからこそ男女共同参画への強いメッセージが感じられる。市長は、首長の育児休暇取得に関して、どのように考えているか併せて伺う。		

令和7年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	9	質問者	安保 真希	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1	市長の市政ビジョンと今後の重点政策について			① 4月に就任され、新体制の下で市政運営がスタートしたが、市長がどの分野に特に重点を置き、市政をどのように進めようとしているのか伺う。また、具体的な取り組みや、優先順位をどのように設定しているのか併せて伺う。	
2	「広報かづの」の配布の現状と今後の体制について				
	(1) 現行の広報配布体制とその課題について			① 本市の広報配布活動は主に自治会を通じて行われており、チラシの量、住宅同士の距離が離れている地域、また階段の昇降が伴う集合住宅などでは配布作業が身体的負担になっている。市ではこうした実態をどのように把握しているか伺う。	
	(2) 広報配布協力金の費用対効果と代替手段について			① 現在、配布協力金として支払われている「自治会振興交付金制度」の600円が、制度本来の趣旨から逸脱して「協力金がもらえるから配る」という「目的化」になっていないか、市の評価を伺う。 また、広報配布について、全戸配布を廃止し希望者への戸別配布、公共施設などへ配置する拠点配布、高齢者への見守り配布を組み合わせた分散型配布を提案するが、市の考えを伺う。	
	(3) ペーパーレス化とデジタル弱者への配慮について			① 広報はウェブ上でも閲覧可能であり、今後はペーパーレス希望世帯の配布除外や、希望登録制の導入により柔軟な配布を可能とすべきと考える。こうした体制構築について市の見解を伺う。	
3	行政手続きのオンライン推進について				
	(1) 行政手続きのデジタル化と市民の利便性の向上について			① 本市における行政手続きのオンライン化の現状と今後の拡充に向けた方針（行政アプリの導入など）、また、現在のLINE公式アカウントの利用者登録状況や利用状況について伺う。	

令和7年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	9	質問者	安保 真希	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
(2) マイナンバーカードの申請、利用申請、利用促進について			① マイナンバーカードは本人確認、健康保険証、確定申告など活用の幅が広がっている。 現在、他自治体では公共施設利用や防災アプリとの連携など、生活に身近なツールとして活用する事例も見られるが、マイナンバーカードを活用したサービスの検討、カードの取得率の向上や活用促進のための市民への周知、啓発対策について検討されているか伺う。		
(3) I T弱者への配慮について			① 高齢者やデジタル機器の操作に不慣れな市民へのサポート体制の整備について、I C T操作支援やマイナンバーカード申請サポートの出張支援など、どのような配慮がなされているか市の方針を伺う。		

令和 7 年第 5 回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	10	質問者	綱木 裕一	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1	労働需給の最適化について			① 市長の施政方針中、基本方針 3 の「地域経済と雇用の最適化」について、「需要変動の大きい労働需給の最適化」とあったが、賛成である。 その一方で、市内ではまだまだ副業を禁止している民間企業も多いが、市としてどのようなアプローチをしていくのか、考えを伺う。	
2	A I 技術を活用した市役所業務などの効率化について			① 近年、飛躍的な進歩が見られる A I 技術だが、他自治体において市役所業務への導入が進んでいる。 例えば、埼玉県戸田市では、職員に A I アカウントを配付し、利用料約 11 万円に対して約 500 時間分（225 万円相当）の労働時間の削減をしており、さらに市民向け A I 総合案内チャットボットを導入し、子育てやごみ出しなどの問い合わせには 24 時間自動応答している。 また、静岡県湖西市では、SNS 投稿文やイベント案内文、仕様書、議事録作成、画像作成など幅広い分野で A I を活用し、月額 7 万円の使用料に対して月間 100 時間程度の労働時間の削減効果がある。 また、大分県別府市では、従来 2 週間かかっていたアンケートの分類作業が 2 日で完了したなど、今後さらに技術進歩することとなるであろう A I 技術の影響は計り知れない。 少子高齢化により労働人口も減少していく中で、こうした技術を人口減少率の高いここ鹿角市こそ積極的に取り入れていくべきと考える。 当局でもこうした技術の導入は検討されていると思うが、A I 技術をどのように活かしていく考えなのか伺う。	
3	市の財政健全化について			① 財政健全化のために、公共施設の管理維持費の圧縮をかなりのペースで進めていく必要があると思うが、他自治体では、閉鎖や縮小に至るまで住民の理解が進まず、「説明が不十分である、進め方が乱暴である」等、話合いが紛糾しているケースも見受けられる。 鹿角市ではそうしたケースを他山の石として、時間をかけて対話を重ね、理解や納得が得られるよう、できるだけ早い段階で公共施設などの廃止や閉鎖、縮小、統廃合のロードマップを早期に作成、公開し、対話を重ねていく必要があると感じるが、考えを伺う。	

令和7年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	10	質問者	綱木 裕一	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
4	市独自の不妊治療費助成制度の創設、拡充について			① 2022 年より不妊治療の多くが公的医療保険の適用対象となり、これまで高額だった治療費の自己負担が軽減された。しかし、公的保険適用には、年齢や回数などの制約があり、適用外となると依然高額な費用が夫婦にのしかかってくる。 こうした中、各地の自治体では独自に助成制度を創設・継続・拡充する動きが見受けられるが、鹿角市では今後どのように取り組んでいくのか考えを伺う。	
5	農業生産者の支援について			① 現在においても、そして今後においても離農者が急増するものと考えられる。こうした高齢化が伴う離農が進む中、使われなくなった農機具などが多数存在するものと考えられるが、これらの農機具などは、初期投資に悩む新規就農者や、更新コストを抑えたい既存農家にとって大きな支援となり得る。 これは空き家バンクに発想が似ているが、他自治体では離農者の農機具情報を行政が取りまとめ、譲渡や安価な販売を通じて地域内で再利用を促す「農機具マッチング制度」の導入が進んでいる。 こうした仕組みは、農業資源の有効活用、新規就農・既存生産者支援、さらには資源循環型社会の形成につながる施策と考えるが、本市においてもこの制度を導入できないか、考えを伺う。	
6	地域交通の問題解決について			① 現在、鹿角でも全国的にも、鉄道、バスの路線廃止、便数の減少等が続き、その赤字額も多大な数字となっており、公共交通の未来が見通せないといっても過言ではない状況となっている。その一方で、高齢者の日頃の移動手段、子育て世代の部活動・スポ少など児童生徒の課外活動時の移動、また近年では熊の出没が頻繁に起こり、これまで自転車通学ができていた生徒も移動手段として取れなくなり、一層家庭への負担が大きくなっている。 将来的に、さらに交通手段の選択肢が少なくなる可能性が大きい中、市独自の柔軟な地域交通網の早期構築が必要と感じる。 他自治体では、地域交通ボランティア制度などを導入し、市民主体の交通網の構築に取り組んでいるようだが、鹿角市ではどのような展望を描いているか伺う。	

令和7年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	11	質問者	松村 託磨	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1 地域の未来を担う若者の政治参画を育む仕組みの構築について (1) 若者の政治・地域参画の意義とこれまでの取り組みの評価について				① 地域の人口減少が進む中、若者が「自分のまちに関わりたい」と思える仕組みとして、政治・地域参画を促す場づくりの必要性や意義について、市の認識を問う。 また、鹿角市で過去に行われた「いじめ防止子ども議会」や「かづの未来の若者会議」などの取り組みとその課題について、市はどのように評価しているのか併せて問う。 ② 市として「少年議会」や「ユースカウンスル」のような仕組みを導入することを提案するが、市は、若者の政治・地域参画をどのように位置づけ、今後どのように取り組んでいくのか問う。	
(2) 教職員負担の軽減を踏まえた制度化の可能性、及び地域経済への波及効果について				① 教職員負担の課題を踏まえた上で、NPO等との協働や市の積極的な関与による「少年議会」や「ユースカウンスル」のような仕組みを継続的に実施していく可能性について、市の見解を問う。 さらに、こうした若者主体の仕組みが、将来的に鹿角市の産業振興や地域経済の活性化にどのようにつながっていくのか、市長の所見を問う。	
2 少子高齢化が進む鹿角市における「かかりつけ医（総合診療医）」の配置と地域医療の基盤づくりについて (1) 県などへの医師派遣要望の状況とその進捗について				① 鹿角市の医療体制の縮小が進む中で、医師派遣について、市では県などに対してどのような要望を行っているのか問う。 また、特に、総合診療医の養成・確保に関する秋田県や秋田大学の取り組みとの連携状況について、市の立場及び進捗状況について併せて問う。	

令和7年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	11	質問者	松村 託磨	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
(2) 市としての総合診療医及び総合診療クリニックの配置計画や具体的構想について				① 鹿角市の少子高齢化が進む中で、住民の安心と地域経済の基盤となる「かかりつけ医」の配置をどう実現するか、市としての具体的な計画や構想を伺う。 また、派遣医師との連携や地域の医療・福祉スタッフの協力体制を含め、地域に安定した雇用や活力をもたらす医療体制の実現に向けた市の考えを併せて伺う。	

令和7年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	12	質問者	栗山 尚記	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1 歳入確保について					
(1) ふるさと納税について				① 鹿角市が抱える多くの課題を解決し持続可能な地域社会を実現するには、まずは、投資的施策に使えるより多くの歳入を確保する必要があると考える。地域産業の活性化を図り税収を上げていくことが根本だが、使途の自由度と短期間で税収が上げられる「ふるさと納税」の増収にさらに力を入れる必要があると考える。行政報告において新たなポータルサイトの導入などが挙げられているが、全国の自治体との競合に勝ち抜くには、最低でも、現場を把握し新たな商品開発を企画し現場との関係を密にし、戦略的に税収を上げる作業に集中して取り組める人材の登用が必要と考えるが、市の考えを伺う。加えて、現状、外部委託している企業に対しても具体的な数値目標を提示し、さらなる運営努力を求める必要があると考えるが併せて伺う。	
(2) 国庫補助金や県補助金について				① 国は東京一極集中が止められず長年にわたり地方創生を掲げている。県もトップが変わり秋田の生き残りをかけ大きな政策転換期を迎えている。そんな中、スピードに勝る情報収集能力や的確な政策企画立案の能力にたける地方自治体に対し、より多くの予算が配分され则认为。さらなる国庫補助金や県補助金などを確保するためには、より強固な体制づくりが早急に必要と考えるが、現状と課題、今後のプランについて伺う。	
(3) カーボンクレジットについて				① 2030 カーボンニュートラルに向けての成果は概ね順調に推移していると報告があった。この事業の目標は 2030 年までの数値達成だが、目指すべきは、この事業が鹿角にもたらすプラスの波及効果であり、当市にとっていかに多くの利益を導くことができるかが、重要視すべきポイントと考える。その一つとして他地域に先駆けカーボンニュートラルを達成した先に余剰数値分をカーボンクレジットとして売り込むことができれば、市長が掲げる国内外から投資されるまちの実現の一端となり、自己財源に乏しい本市の財源確保にもつながると考える。加えて今後の市政運営を円滑に行うためにも不可欠な事業と考える。これについての現状の取り組みや問題点、今後の計画について伺う。	

令和7年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	12	質問者	栗山 尚記	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
2 歳出削減について (1) 公共施設の整理について				① 歳入を増やすことはもちろん、持続可能な地域社会を実現するための予算を確保するには、減少を続ける人口規模に合わせた公共施設の維持管理費の圧縮や、それに伴う再編や統廃合が必要と考える。多くの市民からの反発も予想されるが、今後鹿角市を持続させていくためには、避けては通れない道だと考える。IT化が進む中、行政サービスの形態も大きく変化しており、今までにない手法も考えられるが、今後の計画について伺う。	
(2) コンパクトシティについて				① 持続可能な鹿角市の実現のためには、公共施設の整理とともに公共インフラ維持に関わる費用の圧縮も避けては通れない。広い面積を有する中、人口が減り続ける鹿角では、数十年前からコンパクトシティという考え方が存在し、いろいろな計画も立てられてきた。これにも市民からの不満が多く、ほとんど進んでいないのが現状と捉えている。市内各地域のエリアを指定しコンパクトなまちづくりを進めることは、増え続けている冬季の厳しい生活環境で暮らす高齢者の方々の暮らしを支えるためにも、時間をかけてでも確実に進めていくべき施策と考えるが、市の考えを伺う。	
3 医療環境について (1) 医師確保について				① 全国の地方都市において、医師不足、医師偏在が解決されないまま、状況はさらに悪い方向へと向かっている。市民が安心して暮らせる医療環境を守るためには医師の確保は最重要課題である。施政方針の中で地域医療に関しては「将来を見据えて真に必要な医療環境を維持・創出していくための中長期的な指針となる「医療ビジョン」を策定してまいります」とだけ触れており、少し物足りなく感じた。市民が大きな関心を抱いている医師確保について、市長の考えや掘り下げたプランを伺う。	

令和7年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	12	質問者	栗山 尚記	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
(2) 2次医療圏の中心となる大館市立総合病院との関わり方について				① 県が進めた2次医療圏の再編により、8つに区切られていた2次医療圏が3つに集約された。将来的な医療体制を維持するための再編と説明があるが、今後はさらに大館に機能を集中し、鹿角は大館の一部として判断されるような扱いになることが予想される。鹿角市としては今後の県の医療計画に密に関わり、大館市との関係も深め物申せる体制を築いていく必要があると考えるが市の考えを伺う。さらには、距離的問題が実在する大館市立病院へのドクターカーや遠隔医療設備などの配備を求めることも、鹿角市民の命の安心を確保するために必要なアイテムだと考えるが併せて伺う。	
4 子育て環境について					
(1) 出産や育児に関わる経済的支援について				① 鹿角市は、こども家庭センターやファミリー・サポート・センターによる支援体制が他地域に比べても充実していると思う。一方、経済的支援については全国的に見ても類似した内容になっている。「子育て環境が充実している地域」を標榜するためには、さらに特徴的な支援を盛り込む必要があると考える。例えば、子育ての必需品（おむつやミルク等）にかかる消費税分（異次元の少子化対策を行っている国は本来これらに消費税をかけるべきではない）という考えの下に市が負担する等、注目される施策が実現できれば、移住促進や親世代の満足度向上につながると考えるが、市の考えや今後のプランについて伺う。	
(2) 小中高生を育てる保護者世帯への経済的支援について				① 施政方針において「令和8年度からの小中学校の給食費の無償化を検討」とあるが、国による実施が具体化している中、既に実施や検討を具現化している他自治体に対して、完全に後れを取ったと感じる。それを覆すためにも、他地域に先駆けさらなる経済支援、例えば小中高校入学に向けた準備金や給食費以外の必要経費などへの支援や統合によって新たに生じた通学費の全面免除など、これらの実施に向けた検討に入る時期だと考えるが、市の考えを伺う。さらには、鹿角地域唯一となった高校の生徒を育てる保護者世帯への経済的支援や学校環境整備は学校を存続維持するためにも、市として当たり前のように関わる必要があると考えるが併せて伺う。	

令和7年第5回鹿角市議会定例会一般質問

No.4

順位	12	質問者	栗山 尚記	質問所要時間	60 分	No.4
質 問 事 項				質 問 要 旨		
5 地域経済と雇用の最適化について				① 施政方針における基本方針にあるように、少子化や定住対策の要は働く場の確保だと考える。一方、市内の事業所における労働力不足も深刻な状態にある中、既存の事業所の生産効率を高めるとともに、若者に求められる事業形態への変換を促すことへの支援、さらには時代の流れに添った魅力ある企業の誘致を即急に取り込む必要があると考えるが、市の考えを伺う。		
(1) 企業誘致について						
(2) 外国人材確保について						
				① 国のルール改正が進む中、人口減少が止まらない地域に限らず外国人材を確保することは、労働力確保だけを目的とするものだけではなく、地域の経済や文化の今後の存続を左右する大きな流れであり不可欠な施策だと考える。遅ればせながら県の動きも出てきた中、鹿角においても企業の大きな力となっている外国人の姿を見ることが増えてきた。鹿角の生き残りをかけた大きな挑戦として、最初から定住までを見据えた思い切った施策を展開するべきと考えるが、市の考えを伺う。		